

環境保全型農業直接支払交付金  
埼玉県 最終評価報告書(案)

第1章 交付状況の点検

項 目		27年度	28年度	29年度	*30年度 (見込み)	点検
実施市町村数		13	15	15	16	実施市町村数は順調に増加。28年度に6件、30年度に1件が新たに取組を開始した。 実施面積は、28年度が最大となっているが、1取組目の面積の変動は少なく、徐々に取組が広がっている。 今後も、農業者への周知等により拡大を図る。
実施件数		43	35	35	34	
実施面積計 (ha)		171	211	187	174	
交付額計 (千円)		13,249	14,645	12,074	12,696	
カバークロープ	実施件数	21	8	8	8	野菜類を中心に実施されており、取組面積は横ばいとなっている。
	実施面積 (ha)	46	44	33	46	
	交付額 (千円)	3,680	3,481	2,610	3,505	
堆肥の施用	実施件数	1	3	3	4	水稲を中心に実施されており、取組面積は緩やかに増加している。 安定した堆肥の確保が課題となっている。
	実施面積 (ha)	6	10	8	13	
	交付額 (千円)	282	456	370	528	
有機農業	実施件数	26	26	26	25	28年度が最大となっているが、1取組目の面積の変動は少なく、安定して取組が行われる。
	実施面積 (ha)	118	156	146	115	
	交付額 (千円)	9,263	10,683	9,084	8,623	
地域特認取組 (総計)	実施件数	2	2	1	2	リビングマルチの取組に限られた農業者団体によって取り組まれており、取組面積の変動は少ない。
	実施面積 (ha)	0.3	0.3	0.2	0.8	
	交付額 (千円)	24	25	9	40	
特別栽培農産物 認証状況	栽培面積 (ha)	1,281	1,167	1,221		特別栽培農産物認証は、価格に反映されにくいなどの理由により伸び悩んでいる。 エコファーマーは高齢化等のために更新しない農家が多く、減少している。
	農家数 (戸)					
エコファーマー認定件数		1,142	970	722		

## 第2章 環境保全効果（地球温暖化防止及び生物多様性保全）の評価

### 1 地球温暖化防止効果

項目	実施件数	調査件数	単位あたり 温室効果ガス削減量 (t-CO <sub>2</sub> /年/ha) ①	実施面積 (ha) ②	温室効果ガス削減量 (t-CO <sub>2</sub> /年) ①×②
有機農業	26	1	0.2	146	24.7
カバークロープ	8	8	1.7	33	54.8
堆肥の施用	3	3	1.3	8	10.5
地域特認取組					
リビングマルチ	1	2	0.3	0.2	0.1
草生栽培	0	0	—	—	—

#### 【評価】

地球温暖化防止効果については、カバークロープの取組で温室効果ガス削減量が最も大きい結果となった。これは、単位あたり削減量で上位の数字となったことに加え、他の取組に比べ実施面積が大きいことが影響している。また、緑肥と堆肥又は有機質肥料との併用、ソルゴーやライムギといった乾物収量の大きい緑肥の利用により、炭素貯留量が大きい結果となったと考えられる。

有機農業の取組は、単位あたり削減量は小さかったが、実施面積が最も大きく、温室効果額削減量はカバークロープに次いで大きくなった。

堆肥の施用の取組は、単位あたり削減量がカバークロープに比べやや小さく、取組面積も小さかったことから、温室効果ガス削減量としてはカバークロープに比べて小さくなった。

リビングマルチの取組では、単位あたり削減量が小さく、取組面積も1ha以下であることから、温室効果ガス削減量は小さかった。

草生栽培は平成27年度以降取組実績がなく、調査を実施していない。

## 2 生物多様性保全効果

項目	実施件数	調査件数	実施面積 (ha)	調査結果			
				スコア		評価 (S~C)	
				実施区	対照区	実施区	対照区
有機農業	26	1	146	5	0	B	C
地域特認取組							
冬期湛水管理	0	0	0	-	-	-	-

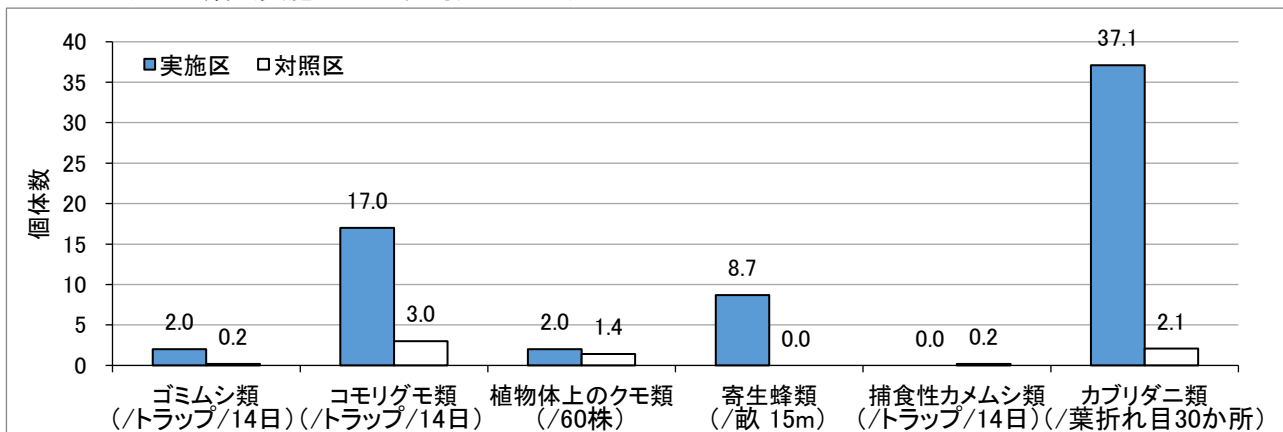
### 【評価】

生物多様性保全効果については、有機農業の取組で調査マニュアルによる生きもの調査を実施し、評価は実施区がB、対照区がCとなり、実施区が対照区より高くなった。スコアに差がつかなかった指標生物についても、個体数には差が認められた。

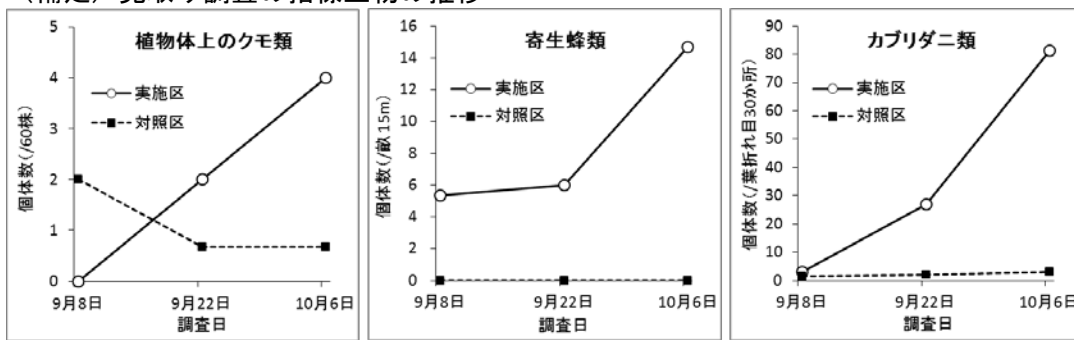
冬期湛水管理の取組は取組実績がなく、調査を実施していない。

### ※有機農業の取組 調査結果

- ゴミムシ類（実施区：1、対照区：0）
- クモ類（コモリグモ類）（実施区：2、対照区：0）
- クモ類（植物体上のクモ類）（実施区：0、対照区：0）
- 寄生蜂類（実施区：0、対照区：0）
- 捕食性カメムシ類（実施区：0、対照区：0）
- カブリダニ類（実施区：2、対照区：0）



### (補足) 見取り調査の指標生物の推移



## 第3章 施策の点検及び今後の対応

### 1 全国共通取組・地域特認取組

#### (1) 効果を高めるために必要な取組について

- ・地球温暖化防止効果を高めるため、緑肥とあわせて有機質肥料などの有機質資材を併用するよう指導する。

#### (2) 推進・拡大のために必要な取組について

- ・農業者への制度の周知
- ・GAPの普及・推進

### 2 地域特認取組

#### (1) 実施状況及び効果測定調査結果

取組名	実施面積 (ha)							効果測定調査結果 (t-CO2/年/ha) (S~C)
	24年度	25	26	27	28	29	30	
リビングマルチ	4.7	2.8	0.1	0.3	0.3	0.2	0.8	0.3(t-CO2/年/ha)
草生栽培	0.3	0.3	0.3	0	0	0	0	—
冬期湛水管理	0	0	0	0	0	0	0	—

#### (2) 今後の対応方針

取組名	今後の対応方針
リビングマルチ	今後も地域特認取組として取り組んでいく。
草生栽培	27年度以降取組は行われていないため、廃止とする。
冬期湛水管理	取組実績はないため、廃止とする。